

すいさん山形

No. **359**

令和3年 / 7 月号

漁民と手をつなく広報誌

山形県漁業協同組合
広報誌

大漁旗に想いをのせて

6月6日(日)を皮切りに、今年も船凍いか釣り船団は酒田港から続々と出航していきました。残念ながら昨年同様、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点により出航式は中止となりましたが、酒田市に拠点を置く「太鼓道場 風の会」の荘厳な太鼓演奏とともに、駆け付けた家族や知人、関係者で安全航海と大漁を心から願い出航を見送りました。



第56回 通常総代会開催

第56回通常総代会が6月22日(火)午前10時より本所講堂において開催されました。

本総代会においては、未だに新型コロナウイルス感染症の影響が続いている中、蔓延防止の観点から昨年度と同様に書面による出席(書面議決)を基本とした運営といたしました。

冒頭、本間組合長が挨拶を行い、次に実出席された酒田地区総代の長谷川保正氏が議長に選出され、第1号議案の令和2年度事業報告及び剰余金処分案の承認に関する件、第2号議案の令和3年度事業計画の設定に関する件、第3号議案から第8号議案の役員報酬に関する件まで8議案が審議され、いずれも可決承認されました。

令和2年度の事業概況

令和2年度の本県漁業については、昨年引き続き、船凍いか釣漁業が不漁となるとともに、沿岸における底曳網漁業や延縄、採介藻漁業も不漁で終了しました。一方で定置網漁業が水揚げ数量・金額ともに増加、さらには、漁期始めより本県沖にスルメイカ漁場が形成され、県外生いか船が酒田港に集結し、まとまった水揚げがあったことで、総水揚金額は前年対比1億63百萬元増、計画対比でも2億74百萬元増の29億54百萬元となりました。

総水揚金額の増加と生鮮魚介類の水揚量の増加は、経済各事業の取扱増となり、経営収支状況は概ね安定した実績を維持出来ました。

しかしながら、買取保有在庫である冷凍スルメイカに關し、新型コロナウイルス感染拡大による物流の停滞から、前年度繰越在庫と本年度買い支えとした在庫を逆鞘での早

期販売に踏み切りました。結果としては事業費用を抑えた形となり、事業収益に繋がっております。

最終的に令和2年度の当組合の収支実績については、事業利益が34百萬元、経常利益についても69百萬元を確保することができ、当期剰余金として75百萬元の黒字を計上することができました。これもひとえに組合員の皆様のご協力によるものと深く感謝申し上げます。今後も当組合が将来にわたり持続できる協同組合組織として事業を継続していくために、確実に組合全体の収支を黒字化できるように収支構造の改善を図り、計画的な内部留保による財務基盤の強化に努めてまいります。

今後とも、役員員一致団結して経営改善に努めてまいりますので、組合員の皆様のさらなるご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。主な事業活動と成果については以下のとおりです。

① 信用事業

貯金業務については、計画目標を49億円とし、本年度も「みな貯金推進運動」等を展開しながら、個人貯金残高の維持・確保を図り、最終的に年度末残高は、50億68百萬元、平均残高では48億95百萬元となり計画比で103・4%となりました。

貸出業務については、計画目標を6億83百萬元とし伸長融資に努めましたが、最終的に年度末残高は5億83百萬元となり、計画対比85・2%という結果となりました。なお、貯貸率は11・5%となり、前年対比0・4%下回りました。

その結果、信用事業総利益は22百萬元となり、前年度末対比で4百萬元減であり、計画比では4百萬元の減少となりました。

② 共済事業

長期共済の主力商品である生命共済普通厚生共済「チョコー」は推進保障共済金額12億25百萬元の実績となり、建物共済 生活総合共済「くらし」は補償共済金額3億10百萬元の実績となりました。

長期共済契約保有実績では「チョコー」は62億92百萬元、対前年度比95・0%となり、「くらし」は25億26百萬元と対前年度99・3%となりました。

短期共済では乗組員厚生共済「ノリコー」は8億38百萬元と達成率83・8%、火災共済「カサイ」は53億30百萬元と達成率86・0%となりました。これは組合員の減少や高齢化、乗組員の減少、既存建物の取り壊しなどといった影響から、契約保有高が年々減少傾

向となっております。

上記のことから、契約保有高の減少等が影響し、共済事業総利益は11百萬元となり、前年度に対して104・6%の実績率、計画に対しては84・2%の達成率となりました。

③ 購買事業

当組合の供給価格についても年度内に数回の価格改定を実施し、適正価格の供給に努めてまいりました。今後も先行き不透明感の高い中、動向を注視して参ります。

当組合の主要取扱品目であるA重油の供給数量は、県外生いか船の入港増により前年対比103・8%増となりました。軽油については重油から軽油に切り替えた漁船の増加に伴い、前年対比155・4%となりました。灯油については前年対比106・3%となっております。これにより石油類全体での供給数量は前年対比107・6%という結果となりました。

魚箱類については、生いかの漁獲量の増加があったものの、新型コロナウイルスによる魚価対策としてのスカイタンクでの販売を行ったことによる魚箱出荷の減少により、前年対比103・8%の実績となっております。

一般資材類につきましては国の補助事業や制度資金の購買取扱があり前年対比143・5%の実績となりました。

その結果、購買事業総利益は1億82百萬元となり、計画に対し97・4%の達成率となりました。

④ 販売事業

本年度の本県漁業において、基幹漁

種である底曳網漁業は、風数の減少で延べ隻数が35隻昨年より少なかったうえ、ハタハタ、マダラ等主要魚種の漁獲量の大幅減により、水揚高は前年度を1億16百万円下回る7億22百万円にとどまりました。

その一方で、小型いか釣漁業は、本県沖での漁場形成とレンタカー手配等の県外船誘致活動により、5月以降年度末まで長期間水揚げが続いたことで延べ2,000隻余り、20万ケースの取り扱いとなり、金額でも5億92百万円と過去最高を記録しました。また、定置網漁業においては、秋サケの来遊が前年対比200%となったことに加え、全国的品不足から高値取引となったことも追い風となり、定置網全体の数量、金額とも押し上げ、水揚高は前年比170%となる2億66百万円になりました。この結果、総水揚金額は計画対比で2億74百万円、前年対比でも1億63百万円いずれも上回り、29億54百万円となりました。

買取販売については、主要取引品目である冷凍スルメイカが昨年に比べ一定の水揚げがあったことに加え、コロナ禍による需要減少により、平均単価は前年より2,200円安い5,500円ほどに下がりました。そうした中、過度な買い支え介入を控えながら、在庫の早期販売に努めた結果、冷凍品では6億28百万円、鮮魚を含めた全体では6億41百万円の販売高となりました。その他の魚価向上に関する取組みでは、昨年に引き続き県内陸部量販店において春と秋にキャンペーンを実施しました。しかしながら、コロナ禍で試食提供等対面販売が控えられたことで、

各種イベントは軒並み中止され、活動は限定的となりました。

その結果、事業総利益は1億30百万円となり、計画達成率109・6%、前年対実績率99・6%となりました。

⑤ 製氷冷凍冷蔵事業

工場生産の合理化に努めるとともに、組合員に対する安定供給を優先し事業展開をいたしました。小型いか釣漁業への供給について、夏季、冬季ともに県外船の入港により前年対比210%の供給数量となり、地元漁業及び定置網漁業への供給は前年度に比べ減少しました。

この結果、数量で前年対比108・1%の4万9千本、供給高では前年対比106・9%の86百万円となりました。また、各施設の計画的な保守管理を実施したことによる修繕費の増加などによる経費の増加により、最終的に製氷冷凍事業総利益は35百万円となり、前年度に対し113・7%の実績率、計画に対し117・5%の達成率となりました。

⑥ 加工事業

近年、スルメイカ原料の水揚げ不安定による価格変動に伴い慢性的に消費が鈍化している中、コロナ禍の影響を大きく受け、加工商品・加工原料の売上が大きく下振れしたことに加え、水産物の漁獲量減少により加工原料向けの価格上昇となり厳しい状況でありました。

その中でも、加工製品の主軸である鶴岡市学校給食では地場産利用率を高め、前年度対比140%の12百万円の取り扱いや、「山形県産水産物の学校給食への提供事業補助金」の活用で県内全

域による学校給食へのスルメイカ製品等の供給により加工品販売高は前年度対比50百万円増の97百万円となりました。

加工製造業向け原料販売については各社の販売が不調となり販売数量は大きく落ち込み、冷凍品供給高は前年度対比20百万円減の34百万円となりました。これらに県漁協直営「庄内海丸」の売上を加えた加工事業収益は、前年度対比121%の1億77百万円となりました。

加工事業直接費は加工原料の在庫を費やすことに努め、前年対比102%の1億38百万円となりました。その結果、産直事業を含めた加工事業総利益は39百万円の実績となり、前年度対比362%の実績率、計画に対して559%の達成率となりました。

本年度は新商品開発強化事業の活用により、「庄内浜産おさしみ鮭とイクラ漬け」の商品開発を手掛け、国産水産物流通促進センター主催の「おうちでFisheryグランプリ」にて販売し、ファン投票一位を獲得することができ、今後も加工品開発に積極的に取り組み販路拡大と売上向上を目指します。県漁協直営店「庄内海丸」はオープンより5周年が経過しましたが、着実にお客様も増えており、引き続き庄内浜魚のPRをするとともに、地産地消・魚食普及に努めて参ります。

⑦ 指導事業

県・沿岸市町の協力を得て、各種種苗の放流を実施し、資源の増殖及び繁殖保護に努めました（放流尾数 アワビ202,700個、ヒラメ148,500尾、サケ195,600尾）。また、放流に伴って放流地点付近を禁

漁区又は保護区域と設定することにより、放流稚魚の保護を図りました。

ヒラメ、トラフグ及びアワビ放流事業については、継続して取組んでいるにもかかわらず資源状況が悪化する現状を鑑み、回帰率や回収率の向上のための放流適期・放流手法の再検討を県および水産研究所、市町と連携して行っております。

令和元年度及び2年度に実施した経営基盤強化支援（コンサルタント）事業によって得られた「経営課題に関する分析・調査報告書」に基づき、漁業者によるヒラメ中間育成を県栽培漁業センターに委託することで、放流事業の収支構造の改善に取組みました。

令和2年12月から施行された改正漁業法について、行政との連携を密にし、漁業者と情報共有のうえ理解を求めるとともに、変化する手続きの円滑な運用に努めました。

水産業競争力強化型機器等導入事業を活用し、船内機や船外機を更新するなど、漁業経営の安定と水産物の安定供給を目指す取組みを行いました。

漁業経営の改善に意欲的に取り組む中核的漁業者を支援するため、県・市町と連携し、「浜の担い手漁船リース事業」を積極的に推進することによって、新船建造・代船導入・機関換装等、浜の漁業経営構造の改革に取り組みしております。令和2年度は、1隻の代船導入と1隻の機関換装を実施しました。

沿岸漁業の収益性の向上と適切な資源管理を両立させることを目的とした「水産業成長産業化沿岸地域創出事業」について、漁具を中心に事業推進を図ったところ、集魚灯等の更新や漁網導

入の申込みがあり、昨年度の8件のほか6件のリースを開始しております。庄内浜産水産物において課題となる安定供給及び漁業収入の安定を目指すため、県の協力を得て、広域浜プラン実証事業を利用した蓄養実証試験（紅エビの活魚出荷試験）に取組みました。併せて、県が主体となって実施した県栽培漁業センターの遊休水槽を活用した蓄養モデル実証事業に協力しました。地方公務員法の改正による救助員の法律上の身分変更を受け、関係市町と昨年度から継続して協議・調整を行った結果、関係市町と県水難救済会又は救難所が業務委託又は協定を締結することによって、救助員がこれまでと変わらず水難救助活動に従事できることとなりました。

外国人漁業実習制度について、当組合が監理団体となり、実習生の受入れに継続して取り組みました。中型いか釣りおよび定置網において実習中のインドネシア研修生第11期生7名、第12期生5名に加え、令和2年8月に3号生（第8期生、第10期生）の受け入れを行いました。また、他の3号生4名については、新型コロナウイルスの影響により未入国となっております。なお、令和3年度より小型いか釣りにおいて実習生の受入れを開始します。

新規漁業者関係事業について、国庫事業である漁業人材総合支援事業では、長期研修3名（独立型2名、雇用型1名）を受け入れました。そのうち1名が雇用され（現在離職）、2名が研修を継続中です。また、県単事業について、1名の研修生を受け入れ、現在は就業に向けた準備を進めています。

令和2年度 水揚表彰



令和2年度 山形県漁協水揚優秀船表彰

漁業種類	船名	船主名	所属支所等	
船凍県内中型船	50t以上 第38正徳丸	佐藤長悦郎	豊浦支所	
船凍県外中型船	50t以上 第86若潮丸	石垣漁業(株)	根室漁協	
船凍県外小型船	30t未満 第77漁進丸	(有)漁進水産	鳥取県漁協	
底曳網ほか	15~20t 第28廣徳丸	池田亀五郎	さかた総合市場	
	10~15t 萬龍丸	飛塚美和	念珠閣総括支所	
	5~10t 第2漁吉丸	阿部 清浩	さかた総合市場	
	5t未満 福傳丸	阿部 昌樹	さかた総合市場	
はえ縄・一本釣網ほか	3t以上 第8海運丸	佐藤 良太	念珠閣総括支所	
	1~3t	海成丸	本間 金弥	念珠閣総括支所
		龍鵬丸	剣持 浩	念珠閣総括支所
		海生丸	五十嵐健生	由良総括支所
海皇丸	本間健太郎	念珠閣総括支所		
定置網	第18仁豊丸	(有)仁三郎	由良総括支所	
採介藻ほか	1t未満 幸進丸	榊原 英樹	由良総括支所	
	白山丸	榊原 昭夫	由良総括支所	
鮮いか県内船	10~20t 第21清栄丸	大場 誠市	由良総括支所	
	10t未満 第18久丸	齋藤 壽	さかた総合市場	
鮮いか県外船	第38大一丸	中野 正吾	戸井漁協	
	輝丸	野呂 秀樹	えさん漁協	
	第61清運丸	新井田 勝	森漁協	

令和2年度 水揚優秀船漁撈長表彰

表彰基準	表彰者名	船名
県内船	佐藤長悦郎	第38正徳丸
	齋藤 春雄	第81金剛丸
県外船	本間 健	第86若潮丸

令和2年度 酒田市水揚優秀船表彰

区分	漁業種類	船名	船主名	所属支所等
県外	いか釣り	50t以上 第86若潮丸	石垣漁業(株)	根室漁協
		第38大一丸	中野 正吾	戸井漁協
		輝丸	野呂 秀樹	えさん漁協
		30t未満 第61清運丸	新井田 勝	森漁協
		崙代丸	二本柳 学	えさん漁協
第18隆輝丸	吉井 隆光	大畑町漁協		
県内	船凍いか釣り	30t以上 第38正徳丸	佐藤長悦郎	豊浦支所
		5t以上 第28廣徳丸	池田亀五郎	さかた総合市場
	底曳網	5t未満 福傳丸	阿部 昌樹	さかた総合市場
		5~30t 第18陸丸	池田 敏行	さかた総合市場
	いか釣り	5t未満 第21大幸丸	讃岐 隆	さかた総合市場
		勝栄丸	讃岐 守	飛鳥支所
		3~5t 第12善宝丸	佐藤喜代一	さかた総合市場
			金毘羅丸	讃岐 利行
	地先	3t未満 第5多喜丸	渡部 伸二	さかた総合市場
		豊幸丸	佐藤 秀樹	飛鳥支所
磯見	讃岐丸	讃岐 一夫	飛鳥支所	

令和2年度 鶴岡市水揚優秀船表彰

漁業種類	船名	船主名	所属支所等
沖合	50t以上 第38正徳丸	佐藤長悦郎	豊浦支所
底曳網	10t以上	萬龍丸	飛塚美和
		第21末廣丸	(有)末廣水産
	昭栄丸	佐藤富士喜	
沿岸	5~10t 清徳丸	佐藤 清紀	念珠閣総括支所
	3t以上	第8海運丸	佐藤 良太
		海成丸	本間 金弥
		龍鵬丸	剣持 浩
海生丸	五十嵐健生	由良総括支所	
定置網	第18仁豊丸	(有)仁三郎	由良総括支所
磯見	1t未満	幸進丸	榊原 英樹
		白山丸	榊原 昭夫
いか市内船	10~20t未満 第21清栄丸	大場 誠市	由良総括支所

水産関係団体 令和2年度 事業の概要

日本漁船保険組合 山形県支所

日本漁船保険組合は6月14日に開催された令和3年度通常総代会において、令和2年度事業報告書並びに決算書、令和3年度事業計画書並びに予算書が承認されました。また任期満了に伴う役員を選任が行われました。新しい体制と、山形県支所の令和2年度事業概要を以下のとおりご報告いたします。

日本漁船保険組合 新体制の紹介

○日本漁船保険組合役員（任期 令和3年6月19日～令和6年6月18日）

会長理事	三宅 哲夫	常務理事	吹上 圭一	理事	黒田 勝春	理事	上竹 秀人
副会長理事	中林 博樹	理事	松田 嘉邦	理事	平野 仁彦	代表監事	薮田 国之
副会長理事	嶋田 栄人	理事	森 祐	理事	藤田 昭夫	監事	森崎 真吾
副会長理事	大坂 鉄夫	理事	福島 哲男	理事	福山 徳	監事	長岡 英典
専務理事	佐藤 由伸	理事	阿部 達男	理事	水主川澄男	監事	浅田 賢一
常務理事	本田 直久	理事	鈴木 將之	理事	東恩納 博		

○山形県支所 総代・運営委員（任期 令和3年6月1日～令和6年5月31日）

総代・運営委員長	伊原 光臣（再任）	運営委員	本間 昭志（再任）	運営委員	池田 薫（再任）
運営委員	飯塚 厚司（再任）	運営委員	和田 均（再任）	運営委員	齋藤 辰幸（再任）
運営委員	本間 元幸（再任）	運営委員	田代 善幸（再任）		
運営委員	榎本 敏明（再任）	運営委員	鈴木 徳正（再任）		

表1 漁船保険地区別加入実績及び支払実績

支所名	在籍漁船	加入漁船	保険金額	純保険料	事故件数	支払保険金	損害率	事故率
念珠関	147隻	133隻	932,650千円	13,966,635円	18件	8,736,989円	62.6%	13.5%
温海	47	47	185,450	2,851,448	5	638,831	22.4	10.6
豊浦	69	68	550,540	9,299,323	14	4,171,028	44.9	20.6
由良	68	60	379,360	8,294,064	15	3,772,144	45.5	25.0
加茂	55	42	144,120	2,834,375	5	1,762,712	62.2	11.9
さかた総合	93	83	848,790	17,387,928	24	17,610,757	101.3	28.9
吹浦	45	33	130,530	2,572,114	10	10,505,756	408.4	30.3
飛鳥	92	76	305,900	5,853,704	15	16,331,803	279.0	19.7
その他	5	3	2,370,000	4,928,400	0	0	0.0	0.0
合計	621	545	5,847,340	67,987,991	106	63,530,020	93.4%	19.4%
前年同期	641	549	5,827,950	69,744,017	82	73,173,249	104.9%	14.9%
前年同期比(%)	96.9%	99.3%	100.3%	97.5%	129.3%	86.8%	89.1%	130.5%

* 在籍漁船には山形県漁業協同組合所有船「第18漁連丸及び第5ちとせ丸」を含む。

* 在籍漁船隻数は、令和3年3月31日現在。加入漁船数は、令和2年4月1日～令和3年3月31日までの累計。

表2 漁船船主責任保険等加入実績と保険金支払状況

種類	本年度契約金額		支払保険金		種類	本年度契約金額		支払保険金		
	隻数	金額(千円)	件数	金額(円)		隻数	金額(千円)	件数	金額(円)	
漁船船主責任保険	基本損害	533	387,100,000	3	2,248,660	漁船乗組船主保険	397	335,500	0	0
	乗客損害	83	31,910,000	0	0	漁船積荷保険	2	144,000	0	0
	人命損害	61	204,000	0	0	プレジャーボート責任保険	155	20,440,000	4	208,112

令和2年度 無事故漁船所有者等表彰

日本漁船保険組合金長表彰

水産庁長官表彰

念珠関総括支所 第五平安丸 五十嵐安貴

念珠関総括支所 大進丸 栗田 義和

加茂出張所 協和丸 株式会社 協和丸

さかた総合市場 清丸 長谷川保正

全国合同漁業共済組合 山形県事務所

本県の令和2年度の水揚高は29億54百万円となり、前年度対比で1億62百万円の増加となりました。しかしながら底曳網漁業をはじめ沿岸漁業が総じて水揚不振となり、特に中型いか釣り漁業が大和堆における中国漁船の違法操業等により深刻な被害を受け、前年を大きく下回りました。また、恒常的な問題となっている漁業者の高齢化、魚価安と燃油価格の高止まり状況、漁場の急激な変化なども相まって漁業経営を一段と厳しくしております。

このような漁業環境にあつて、本年は「ぎよさい普及推進全国運動」の初年度にあたり、「令和の備えもぎよさいとぶらす」をスローガンに、併せて「資源管理・収入安定対策事業」を説明しながら未加入船を中心に推進運動を展開しました。

その結果、鶴岡市の小型合併漁業3件の新規加入と、漁獲共済で2件の契約割合引き上げがありました。前年度同期比での漁獲共済の加入件数は209件と8件減少となり、共済金額においては前年を大きく下回ることとなりました。

長期にわたる漁業環境、経営環境の悪化が「ぎよさいと積立ぶらす」にその役割と期待を更に大きくするものと思われま

す。ここにあらためまして、漁業者各位のご理解とご協力を感謝申し上げます。

ぎよさい加入で

安心経営



つなぐちゃん

(令和2年度 20都府県事務所別 実績一覧表)

事務所別引受実績

(単位:百万円)

事務所	本年	前年	増減
	共済金額	共済金額	
秋田県	885	886	△1
※ 山形県	1,845	2,005	△160
福島県	4,901	4,858	43
茨城県	17,825	13,828	3,997
東京都・本所	4,943	3,371	1,572
神奈川県	4,819	4,740	79
静岡県	13,266	13,735	△469
新潟県	6,436	5,672	764
石川県	11,302	11,536	△234
福井県	5,880	6,009	△129
愛知県	6,761	6,769	△8
京都府	3,502	3,424	78
大阪・和歌山	10,268	9,749	519
岡山県	2,841	2,854	△13
鳥取県	13,690	10,150	3,540
島根県	12,034	11,910	124
山口県	6,565	6,630	△65
高知県	25,083	20,998	4,085
大分県	19,004	18,269	735
沖縄県	7,362	6,734	628
合計	179,212	164,127	15,085

事務所別支払実績

(単位:百万円)

事務所	本年	前年	増減
	共済金	共済金	
秋田県	39	34	5
※ 山形県	93	179	△86
福島県	139	208	△69
茨城県	200	83	117
東京都・本所	56	29	27
神奈川県	287	253	34
静岡県	649	550	99
新潟県	227	176	51
新潟県	562	468	94
福井県	166	124	42
愛知県	437	183	254
京都府	125	82	43
大阪・和歌山	259	251	8
岡山県	544	62	482
鳥取県	279	144	135
島根県	644	248	396
山口県	354	421	△67
高知県	171	250	△79
大分県	83	76	7
沖縄県	213	174	39
合計	5,527	3,995	1,532

積立ぶらす

(単位:千円)

事務所	漁業者積立額	払戻補填金
秋田県	46,390	98,480
※ 山形県	68,920	112,560
福島県	207,480	172,760
茨城県	594,520	1,209,480
東京都・本所	372,940	660,320
神奈川県	342,240	730,560
静岡県	1,051,130	2,672,120
新潟県	352,430	774,520
新潟県	666,390	1,671,080
福井県	265,030	575,240
愛知県	269,870	834,480
京都府	183,130	306,240
大阪・和歌山	502,760	649,120
岡山県	126,740	135,680
鳥取県	446,180	753,420
島根県	519,500	1,416,440
山口県	293,980	690,430
高知県	867,680	764,550
大分県	888,720	805,640
沖縄県	158,530	373,040
合計	8,224,560	15,406,160

理事会情報

令和3年度 第2回 理事会議案
開催日…令和3年6月1日(火)
場所…本所 第一会議室

【協議事項】

- 令和2年度全漁連期末監査の概要及び結果について
- 令和2年度期末監事監査の報告について
- 第56事業年度通常総代会の提出議案について
- 令和2年度貸借対照表・損益計算書及び注記表並びに業務報告書について
- 令和3年度事業計画(案)について
- 令和3年度資金運用計画(案)について
- 令和3年度栽培漁業地域展開促進事業実施計画(案)について

【報告事項】

- 令和2年度固定資産減損損失の兆候について
- 令和2年度自己資本比率の状況について
- 令和2年度税効果会計の適用について
- 酒田港水産エリア再編整備検討協議会の設置について
- 山形県遊佐沖洋上風力発電事業に係る進捗状況について
- 高圧受電設備(キュービクル)のアウトソーシングについて
- 組合員の加入・脱退及び減資について
- その他

JF 共水連東北事業本部 山形支店

☆JF共済 2020年度加入状況 (単位：件、万円)

共済種類	実績		保有			
	件数	共済金額	件数	共済金額		
長期共済	チョコー	新規	129	123,710	1,003	657,360
		純新規		110,300		
	くらし	28	35,700	221	265,930	
	年金	新規	3	26	398	2,370
増額		7	22			
短期	ノリコー	253	86,000	—	—	
	カサイ	370	576,149	—	—	

☆2020年度共済金支払状況

普通厚生共済 (チョコー)		
満期	85 件	16,322 万円
死亡	4	1,214
入院・通院他	71	611
計	160	18,147

生活総合共済 (くらし)		
満期	13 件	2,050 万円
事故	13	614
計	26	2,664

漁業者高齢福祉共済 (ねんきん)		
年金	208 件	3,020 万円
死亡	0	0
計	208	3,020

乗組員厚生共済 (ノリコー)		
死亡	2 件	400 万円
入院他	6	82
計	8	482

火災共済 (カサイ)	
6 件	508 万円

団体信用厚生共済 (ダンシン)	
0 件	0 万円

JF共済は2020年度「浜の安心を未来へ」ひろげよう共済の輪、JF共済三か年計画(2020年度～2022年度)の初年度として、浜のあんしんサポート運動を主体とした「組合員・地域住民の暮らしの保障に万全を期す」という全体目標を掲げ取り組んで参りました。

本県JF共済推進本部は「ひろげよう共済の輪2020やまがたスタートダッシュキャンペーン!」を掲げ、共済事業におけるコンプライアンスと普及推進並びに、各種研修実施等により体制の強化に努めました。また、東北6県合同による「東北まるごと!JF共済スマイルサポートキャンペーン」を行ない、

事業量目標の早期達成に向けたキャンペーンを実施しました。その結果、JF共済の基幹種目である生命共済「チョコー」は、推進保障目標を達成することが出来ました。一方、建物共済「くらし」では新規補償目標達成には至りませんでした。一定の成果を挙げることが出来ました。

厳しい漁業環境のなか、共済加入等にご協力頂いた皆様に対し、深く感謝申し上げますと共に、組合員・地域住民の多様なニーズや信頼にお応え出来るよう、JFやまがたと一体となつて「ふれあい型」推進に努めて参りますので、なお一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

「JF共済3か年計画」
運動スローガン
(2020年度～2022年度)

「浜の安心を未来へ
～ひろげよう共済の輪～」

がんばろう漁業 浜の応援団

笑顔がいっぱい JF共済

原点回帰 協同の力

全国漁業信用基金協会 山形支所

(1) 会員と出資金

会員数は、新規加入0名、脱退4名により、前年度末より4名減少し、本年度末会員数は56名であります。また、出資金は、口数の増加により350千円増加する一方、脱退会員に対する払戻により6,400千円減少し、本年度末出資金は659,600千円となりました。

(2) 保証業務

年間保証計画額100,000千円（漁業近代化資金：75,000千円、その他一般資金：25,000千円）を目標に保証推進を行った結果、年間保証引受額は19件101,900千円となり、その結果、本年度末保証残高は98件521,483千円となりました。前年度末対比では、件数では13件減少し、保証残高では15,598千円増加しております。

なお、資金種類別の保証状況は下表のとおりであります。

(3) 代位弁済と求償権

代位弁済は発生いたしませんでした。一方、求償権の回収については、極めて厳しい情勢の中で積極的な回収努力と支協協力による回収で14,447千円（計画額6,433千円、達成率224%）の回収を図ることができました。その結果、本年度末求償権残高は、前年度より2件14,447千円減少し、124件1,194,220千円となりました。

(4) 収支

収入については、保証料収入は計画を若干下回りましたが、有価証券売却による売却益が発生したこと等が影響し、収益合計は計画額を23,636千円上回る41,270千円となりました。

一方、費用については、保険料支出は計画を若干下回り、事業管理費等の経費削減に努めたことから、費用合計は計画額を2,456千円下回る14,097千円となりました。

その結果、当期利益金は計画額1,081千円に対し、26,092千円増加の27,173千円計上する結果となりました。

今後も国の施策事業を積極的に活用し、漁業金融の円滑化を促進するとともに、保証基盤の強化を図り、中小漁業者等の漁業経営の改善と安定化に寄与できるよう努めて参りたいと考えております。

(5) 役員の異動

就任（令和3年7月1日）
 担当監事 近野 広行
 退任（令和3年6月30日）
 担当監事 高橋 和博

（金額単位：千円）

区分	前年度末保証残高		保証額		償還額		代弁額		本年度末保証残高	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
近代化資金	55	433,596	14	89,740	9	58,341	-	-	60	464,995
一般資金	金融公庫資金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	一般緊急融資資金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	借替緊急融資資金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	その他一般資金	56	72,289	5	12,160	23	27,961	-	-	38
小計	56	72,289	5	12,160	23	27,961	-	-	38	56,488
計	111	505,885	19	101,900	32	86,302	-	-	98	521,483



天然印 庄内浜テロワール

天然印 庄内浜テロワール 始動！

昨年度、天然鯛を使用した「鯛だし麺」を各飲食店で販売するキャンペーンや、様々なイベントを実施してきた海と日本プロジェクトの「トトタベローネ庄内浜」が、今年から「天然印 庄名浜テロワール」という名前にリニューアルして再始動します。

庄名浜テロワールでは、天然魚、浜文化のすばらしさを伝え、人々に海に目を向けてもらうべく、よりパワーアップした様々なキャンペーンやイベントを実施予定！「鯛だし麺キャンペーン」も7月24日からスタートします。

人々が庄内の天然魚を食す機会、海の事を考える機会を作っていきます！

海と食の地域モデルin庄内浜実行委員会事務局

海上保安学校門
司分校長時代のエピソード

新規就業者の人材育成について

酒田海上保安部長の梶原と申します。読者の皆様方におかれましては、常日ごろから海上保安業務へのご理解・ご協力を賜り深く感謝申し上げます。

この度「すいさん山形」様から執筆のご依頼があり「その心は？」とお尋ねしたところ「新規就業者の人材育成」に関して経験から何か良い話はないか？とのことで、どこの組織においても同じ課題を抱えており大変難しいものと認識しつつもお受けしたしだいであり、ご参考になれば幸甚です。

私は、前任地で海上保安学校門司分校長をしており、船舶、航空機等に関する国家資格を既に持って海上保安庁の試験に合格した19歳から55歳の「海上保安官のたまご」に対して、6ヵ月間の全寮制の中で海上保安官の基礎知識・技能等を修得させるため教壇に立っておりました。

「海上保安官である前に“良き社会人”であれ！」「糧を得るためだけでなく仕事に“生きがい・やりがい”を求め感じるものでなければ長くは続かない！」「ゲームばかりせず人格を磨き、能力を高め、個人を充実させるための“自己研鑽・自己啓発”をせよ！」「最も大切なことは“人との絆”である！」等々を説いていました。

研修生は、海上保安官に成るという覚悟をもって入校してきますので、初心を忘れることがないようにしつつ、現場の大変さや、このような精神論の話をするとう不安になり辞めたいと言う者もいましたが、そこで、仕事は一人でするのではなく同僚・上司等と協力してするものであり、その先にある「使命感（生きがい・やりがい）等々を更に情熱的に説明すると、元気に「がんばります！」と返事をしてくれました。

少子高齢化や若年層の海離れ等で「海で働く」人材確保が難しい時代、海上保安庁も例外ではなく「人材育成」は最も重要な課題の一つであり、それに対する特効薬やワクチンはないものの、個人を尊重しつつ、その個人がこの仕事をして良かったと思え成長するように組織として導くこと、そして、組織として働き方改革、ハラスメント根絶等々、ハード面ソフト面で職場環境の改善を図り「魅力ある職場づくり」をすることが大切であると考えております。

最後に、水産業の益々のご発展と海で共に働く水産業に携わる皆様方のご健勝、ご多幸、ご活躍並びに航海・操業の安全を祈念申し上げます。



執筆者紹介

酒田海上保安部長
梶原 主税 氏

昭和36年生まれ、宮城県気仙沼市の出身で、趣味は釣りとおレッキング。昭和58年に海上保安庁入庁。初任は第二管区海上保安本部で勤務し、その後、北海道から沖縄県の全国各地の巡視船や陸上での勤務を経て、平成31年に海上保安学校門司分校長に就任。今年3月に酒田海上保安部長に就任した。日に焼けた優しい笑顔が魅力的な梶原保安部長です。

山形県で日本海に
挑戦してみないか

興味がある方は
ご相談ください

JF 山形県漁業協同組合

山形県庄内総合支庁
産業経済部水産振興課

山形県漁協でも新規就業者を随時募集しております。
興味のある方はお気軽にご相談ください。

JF共済「浜のあんしんサポート運動」にご協力下さい!

当組合では、JF共済「浜のあんしんサポート運動」を行うにあたり、ご契約中の保障（補償）内容の確認や漁家（お客様）台帳の整備、共済金請求忘れが無いかの確認など、より皆様にご満足・ご納得いただけるよう活動しております。

組合員・地域住民の方々並びにすでにご加入頂いている皆様には、当組合職員よりお声を掛けさせていただくことがあります。その際には何卒ご協力をいただきますようお願い申し上げます。



水研の何でも魚ッティング

魚醤のおはなし

今回は、魚醤についてのお話です。皆さんは、魚醤と聞いて何を思い浮かべるでしょうか。お隣秋田県の特産品である「しょつつる」を思い浮かべる方が多いかもしれませんね。他にも石川県特産の「いしる」、エスニック料理でおなじみの「ナンプラー」など、土地の水産物が原料となったバリエーション豊かな調味料です。その歴史は古く、日本では奈良時代から食されてきたとか。

そんな魚醤は、作り方がとてもシンプルです。必要なのは新鮮な魚、たくさんの塩、そして長い時間の3つだけ。土地によって細かな製法は異なりますが、基本的には新鮮な魚に飽和量の塩を加え、ときどきかき混ぜながら1年以上熟成します。時間をかけ発酵、分解されたのち、ろ過と煮沸をすることで独特の風味を持った魚醤が完成します。その製法のシンプルさや完成形から、近年では低・未利用魚の活用法としても注目されています。



図1 原料のゲンゲ(上からアゴゲンゲ、クロゲンゲ、ノロゲンゲ)

実は、水産研究所でも庄内浜の低・未利用魚を活用する取組みの一環として、ゲンゲを材料にした魚醤の試作をしています。材料は図1のゲンゲ3種類ですが、これがなかなかのくせ者でした。グロテスクな見た目や特有のゲンゲ臭と戦いながら魚醤をかき混ぜる日々。本当に食品が完成するのか不安で仕方ありませんでしたが、仕込んでから1ヵ月ほどでゲンゲ臭が軽減し、おいしい魚醤完成へ希望が持てるようになりました。3種類のゲンゲ魚醤は、今秋完成予定です。「試食をしてみたい」という方はぜひ水産研究所までご連絡ください!!

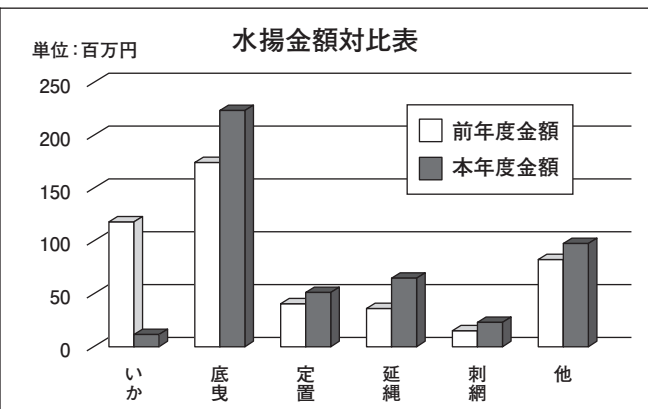
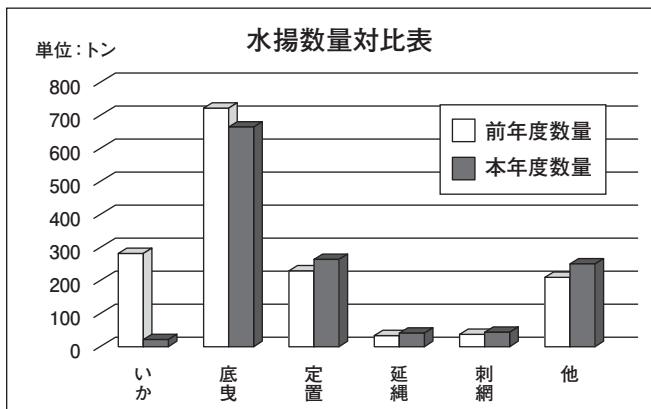
水産研究所資源利用部 研究員 五十嵐悠

前年度水揚金額対比表

令和3年6月30日現在

(単位：kg, 千円)

	6月数量	本年度数量	前年度数量	数量増減	6月金額	本年度金額	前年度金額	金額増減
1 底曳網漁業	356,705	667,771	722,567	▲54,796	106,877	225,042	174,790	50,252
2 刺網漁業	13,961	45,982	39,350	6,632	5,739	23,380	16,072	7,308
3 いか一本釣漁業	22,340	23,865	284,175	▲260,310	11,472	12,361	118,676	▲106,315
4 船凍いか釣漁業	0	0	0	0	0	0	0	0
5 はえなわ漁業	21,862	44,144	36,708	7,436	35,247	65,037	36,833	28,204
6 ごち網漁業	12,673	14,203	11,785	2,418	4,404	5,048	4,900	148
7 定置網漁業	80,533	265,476	233,446	32,030	14,265	51,374	41,370	10,004
8 採貝藻漁業	19,144	36,378	34,935	1,443	15,607	38,678	29,946	8,732
9 その他の漁業	87,898	195,658	157,690	37,968	25,807	47,750	40,717	7,033
10 張網漁業	138	3,103	6,261	▲3,158	85	1,298	2,442	▲1,144
11 遊漁、直売、県外	0	0	0	0	1,247	5,729	5,716	13
合計	615,254	1,296,580	1,526,917	▲230,337	220,750	475,697	471,462	4,235



水揚情報

令和3年6月30日現在

(単位：千円)

区分	支所別	水揚合計	水揚地内訳							
			吹浦	飛島	酒田	加茂	由良	豊浦	温海	念珠関
5月末迄水揚累計		250,467	10,058	6,201	54,831	25,621	41,824	25,541	7,065	79,326
月間水揚	県内船水揚	208,029	10,800	12,746	27,885	14,962	39,716	20,066	7,679	74,175
	県外船水揚	11,473	0	0	2,949	0	0	0	0	8,524
	合計	219,502	10,800	12,746	30,834	14,962	39,716	20,066	7,679	82,699
前年同月水揚		272,761	12,317	10,342	103,365	11,281	21,449	14,148	5,667	94,192
本年度水揚	県内船水揚	457,608	20,858	18,947	82,713	40,583	81,540	45,607	14,744	152,616
	県外船水揚	12,361	0	0	2,952	0	0	0	0	9,409
	合計	469,969	20,858	18,947	85,665	40,583	81,540	45,607	14,744	162,025
前年度水揚累計		465,739	21,045	13,874	147,379	29,211	55,398	33,089	8,292	157,451
増減		4,230	-187	5,073	-61,714	11,372	26,142	12,518	6,452	4,574
本年度水揚計画		2,620,000	85,000	67,000	1,357,000	125,000	280,000	168,000	34,000	504,000
達成率		17.9%	24.5%	28.2%	6.3%	32.4%	29.1%	27.1%	43.3%	32.1%

今あがっている魚

6月のベストテン

前年対比 増↗ 減↘ 変らず→

水揚金額(千円)			魚獲量(kg)		
1	するめいか	85,033 ↘		1	するめいか
2	まぐろ類	35,566 ↗	2	べにずわい	62,250 ↗
3	た い	9,455 ↘	3	ほ っ け	49,033 ↘
4	も ず く	9,390 ↗	4	あ じ	31,514 ↗
5	べにずわい	8,715 ↗	5	ぶり・いなだ	29,168 ↗
6	か き 貝	8,186 ↘	6	た い	26,221 ↗
7	あ じ	5,177 ↗	7	ま ぐ ろ 類	20,189 ↗
8	ほっこくあかえび	3,731 ↘	8	も ず く	10,083 ↗
9	ぶり・いなだ	3,655 ↗	9	か き 貝	10,060 ↗
10	ほ っ け	3,522 ↗	10	た ら	9,032 ↘



月間MVP



月間MVP

● 最後になりましたが、漁業者を含め地域の方々にとって身近で魅力的な浜の情報発信として、すいさん山形を役立てて頂ければ嬉しく思います。読者の皆様や協力いただいた方々ありがとうございました。

● 7月に入り、底曳網漁業が休漁時期になりました。代わりに市場には夏の味覚の岩牡蠣やニシ貝、甘鯛などが水揚げされており、夏の訪れを感じることが出来るようになります。夏といえば庄内ではスルメイカの水揚げがあり、地元の漁業者だけでなく県外からもいか釣り船がやってきます。現在はまだ漁獲量は多くないようですがこれからの大漁を期待しています。

● 去年の1月から国内でコロナが感染確認されてから1年半が経ちました。都市部ではいまだに一日に500人を超える感染者が確認されていますが、山形県では一日当たりの感染者数が0〜5人と落ち着いてきているかと安心した矢先に、クラスターが発生したとの報道があり、まだまだ安心できません。その一方でコロナワクチンの接種が始まっており、身近にもワクチンの接種をしたという人が増えてきています。これから海水浴シーズンを迎えるにあたり、県外から多くの観光客がこの庄内地方に訪れることも多くなると思います。マスクをしっかりしてコロナ感染拡大防止に努めていきましょう。

● 次第に日差しが強くなり、夏の始まりを肌で感じる事が出来る季節になりました。編集後記を作成している現在も30℃を超える真夏日となる日があり、皆様のお手元にすいさん山形が届くころには、更に夏の暑さを感じている頃かと思えます。暑さに負けないよう、熱中症などに気を付けて水分をこまめに取るように心がけましょう。

● 7月に入り、底曳網漁業が休漁時期になりました。代わりに市場には夏の味覚の岩牡蠣やニシ貝、甘鯛などが水揚げされており、夏の訪れを感じることが出来るようになります。夏といえば庄内ではスルメイカの水揚げがあり、地元の漁業者だけでなく県外からもいか釣り船がやってきます。現在はまだ漁獲量は多くないようですがこれからの大漁を期待しています。



山形県漁業協同組合 さかた総合市場

佐藤 真生

大特集 ヒット商品の裏側に迫る!!

～いかの塩辛ができるまで～

愛され続けて約半世紀、年間数千パック以上を売り上げ続けている由良水産加工場のヒット商品「いかの塩辛」ですが、今回は、どんなふう製造されているのか、そのおいしさの秘訣を探り、お伝えしたいと思います。



使われている原料は、刺身で食べられるほど新鮮な、大型の船凍いか（船上で急速冷凍させたもの）で、「いかのまち」でおなじみの酒田港で水揚げされたするめいかを使用しています。



1 下処理



船凍いかを流水解凍し、いかの胴をひらいて脂ワタを取る。ゲソの口や目元を開いて胴体と離し、吸盤を取って足先を切り落とす。

2 洗浄



身の薄皮等を除去し丁寧に洗浄。

3 乾燥



乾燥機に入れ、余分な水分を取り除く。

いかを一度乾燥させることでうまみが凝縮!



5 調合&熟成



すったワタ等を加え、よく混ぜ合わせながら冷蔵庫で数日寝かせる。

使用する脂ワタは特に厳選しており、取り出してすぐ使用するのではなく、1度塩漬にして2か月以上寝かせた熟成ワタを使用!



4 裁断



食べやすいサイズにカットする。



パック詰めして完成!

これだけ手が込んだ製品だからこそこのヒット商品!!

裏話

漁協の大先輩に聞いた話によると、いかの塩辛の歴史は、昭和48年頃、山形県漁業公社があった時代にさかのぼり、当時の職員が北海道に視察に行き、塩辛の製造方法を学んで作り出したそうです。製造開始当初は船凍いか釣り船は無く、昭和50年代に入って船凍いか釣り船が続々と誕生し、その後、改良に改良を重ねて現在の塩辛が完成したとのことです。



庄内地方のお土産店や道の駅、量販店等で販売のほか、由良水産加工場でも直売しています!いかの塩辛がセンターを飾る「夏のお中元セット」も絶賛発売中です!!